

浮世絵館だより

藤沢市
藤澤浮世絵館

2020年
8月
WEB版

将軍の上洛に

人気浮世絵師熱狂してるい



御上洛東海道と幕末の浮世絵

前期:2020年6月16日(火)~7月5日(日)
後期:2020年7月14日(火)~8月30日(日)

タイトルの「御上洛」とは、京都へ行くこと、すなわち京都の御所にいる天皇に会いに行くこと。1863年(文久3年)、徳川第十四代将軍家茂は、ペリ来航など、揺れ動く幕末の状況について、天皇に幕府の政策を伝えるために、三代将軍家光以来、229年ぶりに上洛しました。

江戸の庶民は、この上洛に大いに関心を示し、これに商機とみた浮世絵の出版業界は、複数の板元が一緒になって、当時人気の16名の浮世絵師を動員し、東海道各宿の名所絵シリーズを刊行しました。このシリーズは「御上洛東海道」、また長大な行列が描かれていることから「行列東海道」とも呼ばれます。本展覧会では、所蔵の上洛東海道作品のうちから、前期・後期合わせて59点を展示します。また、同じ幕末の時期の、上洛の行列を通覧する鳥瞰図や双六、異国船来航に備える海防図(瓦版)、開港地横浜の浮世絵など、多彩な作品を紹介いたします。



歌川貞秀「東海道名所之内 ふちさハ 遊行寺」
▲この絵に見られる遊行寺の参道は現在も見られる。

御上洛東海道を描いた浮世絵師たち

このシリーズに参加した絵師を数名ご紹介。まずは三代歌川豊国。当時の浮世絵師の代表格である川歌で、御上洛東海道を牽引する存在として、このシリーズの企画段階から中心的な役割を果たしていたと考えられます。

続いては二代歌川広重。このシリーズは合計で162枚にも及ぶシリーズで、歌川広重と同じく名所絵を得意としていたことや、三代豊国との合作が多かったことから、三代豊国も頼みやないかと考えられます。

他にも明治時代に活躍した月岡芳年や河鍋曉斎、落合芳幾などの歌川国芳門下の絵師たち、横濱の絵の第一人者であり鳥瞰図を精力的に手がけた歌川貞秀も参加していました。

入館予約受付中
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入館の人数および時間の制限を行っています。電話にてご予約受付中です。

入館時間は3つに分かれています
1日につき1名1回まで
① 10時~12時
② 12時30分~14時30分
③ 15時~17時
※入館は各回30分前まで

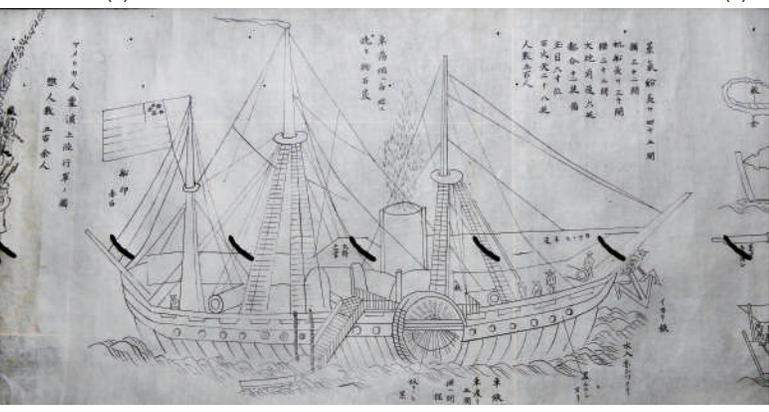
ご協力をお願いします
◆体温計測を行ってからの来館
◆来館後の手指の消毒・マスクの着用・咳エチケット

中止しています
・手荷物のお預かり
・学芸員による解説
・グッズの販売
・図書の閲覧
・ワークシヨップ

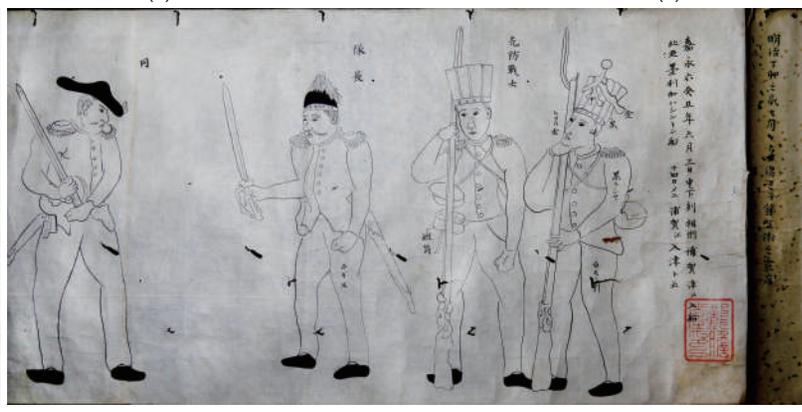


ご予約の際の注意点
お名前とご連絡先をお伺いすることになります。場合によっては保健所へ情報を提供することにご了承ください。
電話番号: 0466(33)0111

謎の絵巻の正体は？



(2) 艦船の図



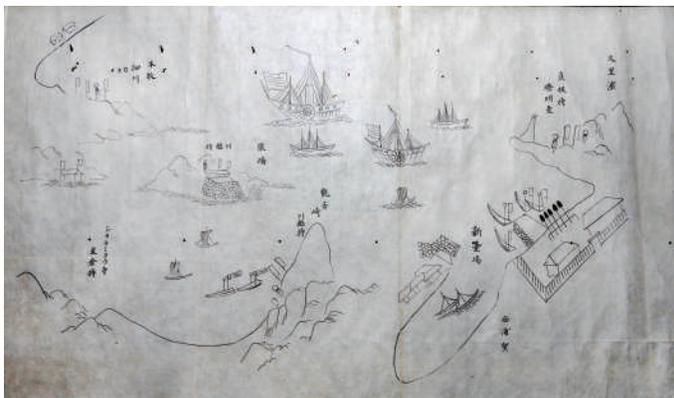
(1) 艦隊乗員の図

嘉永六(一八五三)年にペリー艦隊が初めて来航した時の様子を描いた絵巻です。翌年に艦隊が再来した時の様子を描いたものも含めて、このようにした絵巻を「黒船絵巻」と総称しますが、絵巻の原本はいずれも諸藩の御用絵師が藩の命令で描いたものです。

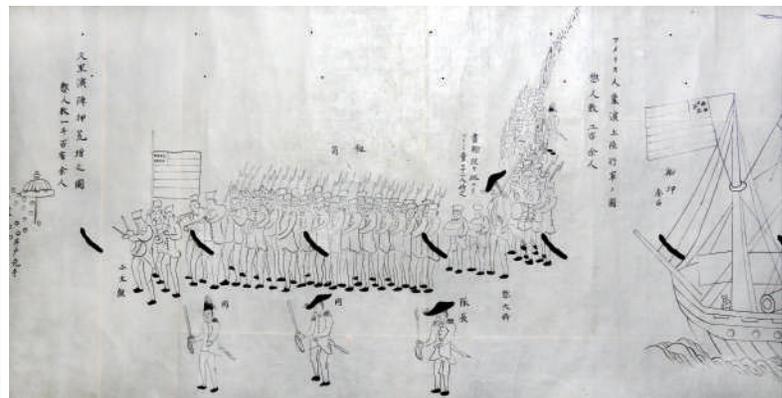
藤澤浮世絵館蔵「相州浦賀米国船入津之図」について

藤澤浮世絵館展示「御上洛東海道と幕末の浮世絵」の展示にあたって、所蔵作品中から謎の絵巻が出てきました。「米国船入津」とありますが、いったいこれは何でしょう？

『亞墨理賀船渡来日記―横浜貿易新聞から―』(神奈川新聞社)の著者で、横浜開港資料館館長の西川武臣さんに聞いてみました。



(4) 台場の様子



(3) 上陸するアメリカ将兵の様子

端書には明治初年に絵巻を東京の銀座で入手したとありますから、当時、こうした絵巻の写しが各地で売られていた可能性がります。(西川武臣)

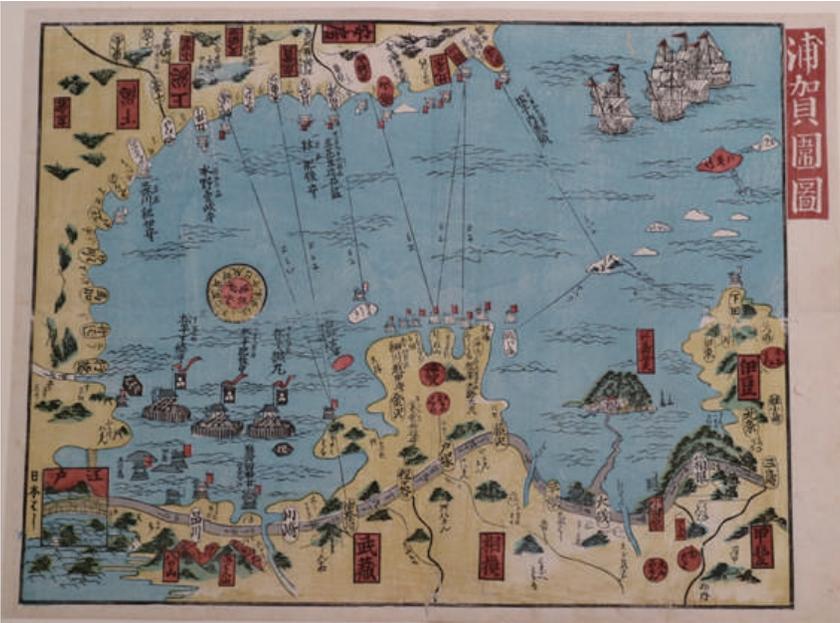
残念ながら、この絵巻は写しであるためやや写実性に欠けますが、艦隊の乗組員や艦船、久里浜に上陸するアメリカ将兵の様子、警備にあたった浦賀奉行所や彦根藩などの諸藩の軍勢、猿島や観音崎の台場の様子などが詳細に描かれています。

この絵巻については、同じ図柄のものが岡山県津山市立津山洋学資料館に所蔵されているので、津山藩の御用絵師が描いた原本から写したものだと思われます。「黒船絵巻」はペリー艦隊来航に関するビジュアルな報告書というべきもので、瓦版にくらべると写実的なものが多いようです。

作者不詳「相州浦賀米国船入津之図」
嘉永6年(一八五三)頃



色摺りの瓦版「浦賀圍図」



江戸時代末期の黒船来航により、江戸幕府は大きな緊張感に包まれ、その対応として、三浦半島から房総半島にかけての海岸線の守りを固めました。図の右上の帆船が江戸湾に向かうペリー艦隊です。この海防の有り様を絵図に記したものが「御固図」とよばれるもので、「瓦版(事件の速報記事を一枚摺りにしたもの)」のかたちで流布されました。この絵図からは、海岸線沿いに譜代大名などが割り当てられ、強固な防衛施設を配備している様子がわかります。名称の「圍」は「囲」と同じで、範囲のことです。(下部中央の半島上に「浦賀」とあります)。江戸城に近い海上には砲台を備えた「御台場」が築造され、絵図中には櫓や大砲、藩主の家紋の入った幟旗も見えます。

「瓦版」は速報性が重視されたこともあって墨摺りのものが多いのですが、人気のテーマでは、浮世絵と同じように色摺りのものも登場しました。右下に「江ノ島弁天」(江の島)が大きく描かれているのは、観光土産的な要素が大きかったことを物語っています。

着物に注目！「五衣色染分」の世界へようこそ

●それぞれの作品の基となった歌舞伎演目と人物●

赤：「本朝廿四孝」より八重垣姫

黄：「恋娘昔八丈」よりお駒

青：「小栗判官もの物語」より照手姫

黒：「隅田春妓女容性」より小梅

白：不詳

「藤澤宿コーナー」にて、揃物である「五衣色染分」を5枚並べて展示しています。揃物とは、いわゆるシリーズ作品です。複数の作品をシリーズ化し、思わず購入してしまいたくなる、版元の販売戦略の一つとして売られていました。

浮世絵は、揃物で制作されたものが数多く存在します。枚数に応じて「〇枚揃」と呼ぶので、本日紹介する作品は「5枚揃」ということになります。

「五衣色染分」は、五行説において、重要な色とされていた「赤」「青」「黄」「黒」「白」の五色に、それぞれ美人を歌舞伎の登場人物になぞられて描いたとされています。



五衣色染分 白



五衣色染分 黒



五衣色染分 青



五衣色染分 黄



五衣色染分 赤

〈五衣色染分(五枚揃物)〉作者 歌川国貞(三代豊国) 制作年 嘉永4年(1851) 大きさ 39.5x27.0cm 形状 大判錦絵五枚組 藤澤浮世絵館所蔵

本日は、「着物の柄」に注目してみたいと思います。

江戸時代の娯楽の一つに「歌舞伎観劇」があります。歌舞伎は、庶民にとって何より楽しみであり、人気役者は憧れの存在でした。役者の扮装が、風俗や流行に大きな影響を与え、着物の柄や帯の結び方が、生活の中に取り入れられました。ちなみに江戸期までは着物のことを小袖と呼んでいました。

今回ご紹介する浮世絵は、それぞれの美人を当時の歌舞伎役者になぞらえただけでなく、おしゃれの流行も一目でわかる、ファッション雑誌のような役割も担っていました。

例えば、「黄」に描かれているのは「黄八丈」と呼ばれる着物です。歌舞伎の初演で、三代目瀬川菊之丞が着ていたことから注目が集まり、江戸で大流行しました。黄八丈は、現在も伊豆諸島の八丈島で伝統工芸品として作られています。

着物の柄からも、当時の流行や生活模様が明らかになっていきます。

着物の柄 部分図



白紵



烏



萩に雪輪



黄八丈



籬に菊

日本には材料・形式によって、様々な種類の「垣」がありますが、描かれているのは、木枝や竹を格子状に組んだ「籬」です。菊は子孫繁栄の象徴として古くから好まれた文様でした。赤い着物は八重垣姫の定番となっています。

伊豆諸島でつくられる「黄八丈」は、江戸時代に將軍家ご愛用品として大奥や、大名家に愛用され、しだいに江戸町人や下町へと広がって粹人に好まれました。人気の柄として、浮世絵にもよく描かれています。

照手姫は、遊女屋で下働きとして働いていた際に「常陸小萩」と名乗っていたことから、萩模様があしらわれています。雪輪は、六角形の雪の結晶を円形に表したものです。着物の色は、一見すると緑色に見えますが、江戸時代では、この色も青に含めました。

描かれている人物は、主人公・梅の由兵衛の妻・小梅ですが、烏柄の着物は、梅の由兵衛の定番衣装として知られています。よく見ると、烏の羽は短く、表情がユーモラスに描かれています。

本図のみ、歌舞伎の役名が判然としませんが、この女性には縞を着ています。縞とは、織る前にあらかじめ文様に従って染め分けた糸を用いて織り上げた模様織物のことをいいます。

こぼれ話

「赤」の兜の白い毛部分や着物の裾には空摺りが施されています。空摺りとは版木に絵の具をつけず、摺り圧だけで紙面に凹凸で模様をつける技法のことです。



→図の一部を加工したもので、実際に斜めから見ると、こういった模様が浮き出て見えます。



教えて!オニカゲくん



浮世絵ってなに?

うきよえ
 浮世絵は、江戸時代のできごとやくらしをテーマにしているよ。
 こども新聞で紹介するのは、「木版画」という種類。一度にたくさん作ることができたから、多くの人がかがてがる手軽に買うことができたよ。

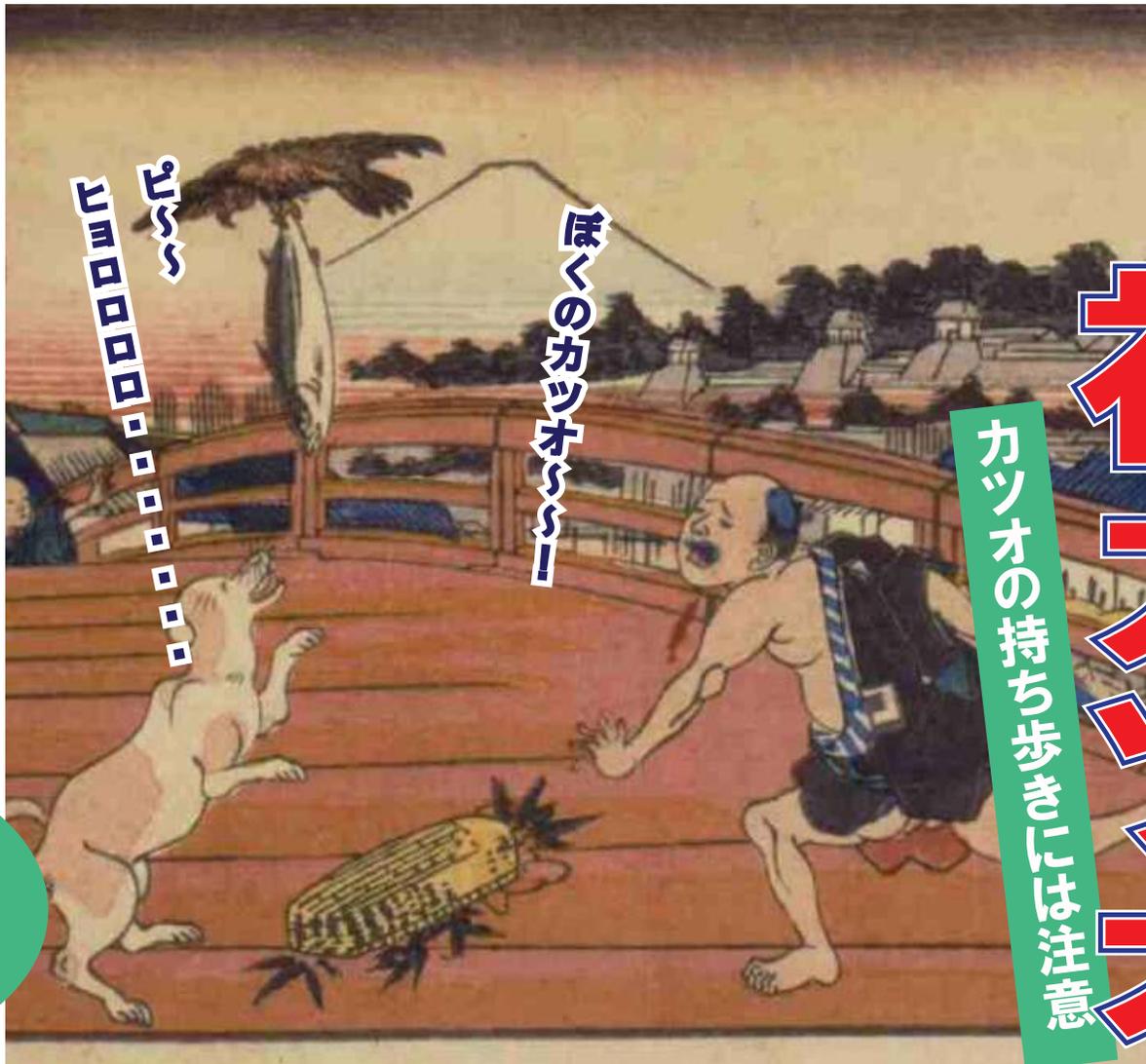


右の浮世絵は、
 今から **167年前**
 につくられた
 ものなんだ!!

江戸のふしぎじけん

大江戸ミステリー

号外



うきよえ

ぼくのカツオ〜

さらわれた

初ガツオ

思わずイヌもびっくり!!

カツオの持ち歩きには注意

歌川芳員「東海道五十三次内 日本橋」嘉永6年(1853)

オニカゲ犬スクーフ!

隠されたことわざのナゾ



うきよえ

お〜い!

「とびに油揚げをさらわれる」

- 大切なものを、とつぜん横からうばわれることのとえ。
- ふいに横取りされて、あつけにとられる様子。

とびが、油揚げの代わりに男の人が大切にしていたカツオを持って行ってしまっているね。まさに、ことわざの場面というワケだ!

君は、「とびに油揚げをさらわれる」体験をしたことがあるかい?

参考文献: 吉田ゆたか
 『まんがで学習ことわざ事典2』 あかね書房
 1984年

浮世絵が売られていた江戸時代も、この浮世絵を見て、大笑いしていたに違いない。

動物のびっくり事件は、二百年たった今でもある。江の島や公園でおやつを食べていたら、トンビにとられてしまった経験が、君にもあるかもしれない。思わず、クスッと笑ってしまう表現は、まるでマンガを読んでいるようだ。

男性は、「初夏の風物詩である初鰹は、江戸では大人気の魚。日本橋の魚市場で買った瞬間、トンビに持っていかれた。鰹のカゴだけが、橋の上に残されていた。」と悲しそうに様子だった。その場にいた犬もびっくりして、思わず二本足でピョン!と立ったという。

おや!?橋の上で、トンビに魚を持っていかれた人がいるよ。事件が起こったのは、江戸の日本橋。横取りされた男性から、話を聞いた。

じけんは橋で起きていた!
 江戸っ子語る。

▼藤澤浮世絵館てんじしつのように▼



オニカゲくんは、藤沢市の伝説、「小栗判官」に登場する馬。浮世絵館では、浮世絵のみりよくを伝えるあんない人。

この新聞を読んで、浮世絵を見てみたくなったら、浮世絵館に遊びに来てね。

まってるよ



オニカゲくん

オニカゲくんのひみつ。